

2008 FIDIC/ASPAC&TCDPAP SEOUL CONFERENCE “Role of Engineering in the Globalization Era” 参加報告

(株)建設技研インターナショナル
国際活動委員会 ASPAC 分科会長 前田 剛和

(株)日水コン
ASPAC 分科会委員 赤坂 和俊

(株)オリエンタルコンサルタンツ
ASPAC 分科会委員 渡津 永子

1. 会議概要

The International Federation of Consulting Engineers(FIDIC)及び FIDIC Member Associations in the Asia-Pacific Region (ASPAC)と、Technical Consultancy Development Programme for Asia and the Pacific (TCDPAP)の共催による “Role of Engineering in the Globalization Era” をテーマとした地域大会(TCDPAP 年次大会)が、韓国ソウル、COEX Intercontinental Hotel において、2008 年 4 月 22 日～25 日の日程で開催された。

アジア・環太平洋地域より、21 カ国約 400 名が参加した。韓国からは、Youn-Ho Lee 経済大臣 (Minister of Knowledge Economy)、Korea Engineering and Consulting Association (KENCA: 韓国エンジニアリング・コンサルタント協会)からのエンジニア、関係者等が多数参加していた。

技術セッションテーマとしては以下の3つがあり、11 名が発表した。

- ・ Solving the Disparity in Engineering Techniques
- ・ Outsourcing: Human Resources
- ・ PPP & Procurement of International Funding

2. 開会式 (4 月 23 日 9:00～)

開会式は、ホスト国である韓国協会(KENCA)の Haeng-Rae Cho 会長より以下について述べられた。

- ・ 本大会がアジア太平洋、さらに世界各国との相互協力及び利益の追求に対するエンジニアリングの役割などについて、議論する機会であること。
- ・ 科学技術や工学技術の急速な発展、国際市場の拡大や国際協力の増大等、国際的な市場環境が大きく変化している中、その変化に我々コンサルティング・エンジニアは適合していかなければならないこと。

その後、FIDIC の John Boyd 会長、ASPAC の廣谷 彰彦 議長、TCDPAP の Haque 会長、韓国の

Youn-Ho Lee 大臣が、それぞれの立場から大会への期待、今後のコンサルティング・エンジニアの役割の重要性などについて述べた。



オープニングシーン

3. 導入セッション (4 月 23 日 10:20～)

本セッションでは、10 カ国(韓国、日本、中国、インド、オーストラリア、スリランカ、ミャンマー、ネパール、ベトナム、アゼルバイジャン)の報告があった。

まず、John Boyd FIDIC 会長から、国際社会における国境を越えて親密な関係を構築することが重要であり、その中において、コンサルティング・エンジニアの果たす役割の重要性や、そのサポート役としての FIDIC の役割について述べられた。

続いて、開催国である韓国における “Capacity Building の取組みと FIDIC との関わり” について報告があった。

その後、廣谷 ASPAC 議長より、日本における Quality Based Selection (QBS: 技術・品質による選定) の推進等を含んだ “Infrastructure Project Delivery Systems and Role of Consulting Engineers in Japan” の報告があった。

その報告の中では、特にコンサルティング・エンジニアにとって、より高い品質・技術を提供することの重要性を強調した。



廣谷議長は 22 日の全セッションでチェアをつとめ、Japan's Experience の発表にも登場

中国からは、現在の経済・社会の継続的な発展に関する報告があった。世界で最も急成長している経済のうちの 1 つとして、インドは、インフラ整備の一括した開発の必要性を認識しており、そのためにはグローバル化が重要であること等について報告された。

オーストラリアからは、エンジニアリングの技術不足とその解決のための短期的・長期的プランについて報告があった。

スリランカ、ミャンマー、ネパール、ベトナム、アゼルバイジャンからは、各国の課題に対するエンジニアリングの果たす役割等に関する報告があった。

それぞれ、未利用エネルギー（太陽、風力、水力、潮汐、生物燃料等）開発や、経済開発とエンジニアリングの役割の関係等の報告であった。

4. TCDPAP 役員会 （3 月 23 日 17:30 ~）

昨年同様、インド政府が資金的な援助を行ない、事務局もインドが運営していること、今後もインド（事務局）が中心となって、その活動を推進してゆくようである。

5. ASPAC 会議 （3 月 24 日 7:30 ~）

ASPAC 理事と 10 カ国の協会代表、及び FIDIC、TCDPAP の会長、事務局長等が参加した。（23 名）

事務局から ASPAC 活動状況と今後の方向性の提示、ASPAC-YPF（Young Professionals Forum）の提案を行った。また山下事務局長からアジア開発銀行セミナーについて紹介があり、ともに多くの参加者が興味を示した。

またインド、スリランカ、ニュージーランド、オースト

ラリア、パキスタン、ベトナムから各国の活動状況について報告があり、技術セミナーの開催など活発な活動状況が伺えた。

FIDIC 会長及び事務局長からは、FIDIC ドキュメントの普及やトレーニングプログラムの提供を通じ、ASPAC 地域における CE の支援を惜しまない旨の発言があった。



ASPAC 会議の様子

6. テクニカルセッション 1 （4 月 24 日 9:00 ~）

“Solving the Disparity in Engineering Techniques” をテーマにインド、韓国、日本の 3 名が発表した。

この中では、LDCs（後発開発途上国）と DCs（先進国）間の技術及び資源のギャップに関する報告や実際のプロジェクトにおける持続可能性管理（PSM）指標の適用等について報告がなされた。

後者の報告は、（株）東京設計の狩谷薫氏が「長良川河口ダム建設プロジェクトにおける持続可能性と PSM 指標の適用（Sustainability on the Construction Project of Nagara River Estuary Barrage and Application of PSM Indicator）」に関して発表した。

報告内容は、FIDIC の PSM 委員会でも検討されており、PSM 指標の適用性等について質問があった。



記念品を受け取る狩谷氏

7. テクニカルセッション2 (4月24日 10:45～)

山下 AJCE 事務局長の司会で、“Outsourcing: Human Resources”をテーマにベトナム、パキスタン、日本、ニュージーランドの4名が発表した。

このセッションでは、(株)日水コンの秋永氏に代わり、(株)オリエンタルコンサルタンツの渡津永子氏が「The Role of Young Engineering in the Global Network」と題して、ヤングエンジニアの役割と情報ネットワークを活用したアジア太平洋地域における YPF の情報交換や教育のあり方等について提案した。会場からも興味深い内容として、賛同の意見が出た。



司会の山下 AJCE 事務局長と渡津氏

8. テクニカルセッション3 (4月24日 13:30～)

“PPP & Procurement of International Funding”をテーマに、韓国、日本(JBIC)、米国、FIDIC の4名が発表した。

このセッションでは、国際協力銀行(JBIC)プロジェクト開発部部長大貝隆之氏が「Selection Methods of Consultants in Japan and Other Countries-JBIC's Observation」と題して、コンサルタントの選定方法として、Quality Based Selection(QBS)のみで行っており、今後もその方向である旨の報告がなされた。また、各国のコンサルタント選定方法について、調査し、整理がなされており、その結果についても、報告された。

質問は、コンサルタントの選定手法が「なぜQBSなのか？」に集中した。これに対しては、日本における低価格入札による品質の悪化等の問題を改善する手法として、用いた等の説明があった。



記念品を受け取る JBIC 大貝氏

9. コンクリーディングセッション (4月24日 16:00～)

会議全体の総括が、John Boyd FIDIC 会長からなされた。また、KENCA 顧問、TCDPAP 事務局長、ASPAC 議長、ACEP(パキスタンコンサルティングエンジニアリング協会)会長より、それぞれ今大会に対する感想や TCDPAP、FIDIC/ASPAC 各組織が連携して活動していくことへの期待などについて述べられていた。

10. 終わりに(全体を通じて)

全体としては、非常にまとまりのあるよい会議であったと感じた。

初日、全セッションで司会進行を勤めるといふ、廣谷 ASPAC 議長の奮闘に始まり、漠然としたテーマの中、各国からの発表内容は、可能な限りテーマの趣旨をくみ取った報告内容であった。

また、FIDIC/ASPAC、TCDPAP による開催した会議であるという点も非常に意義があったと感じた。FIDIC 理事も多数参加し、アジア - パシフィック地域だけではない雰囲気会議となった。

ASPAC 会議においても、FIDIC の主要メンバーが全て参加し、ASPAC のこれまでの活動と今後の活動方針及びこれまで以上の協力について強く印象づけることができた。

また、HP についても情報協力を仰ぎ、本年度における FIDIC の HP 内に ASPAC ホームページを立ち上げることを目標としたい

なお、次年度の TCDPAP 年次大会は、ネパールでの開催予定である。

今後の ASPAC としての活動を充実させるためにも、今回得られた貴重な繋がりを活用していきたい。